

おじいちゃんへ

昨日じいちゃんのお墓参りに、じいちゃんが大好きだったビールと色とりどりのお花を持って行ったよ。
とっても暑かったからキンキンに冷えたビールおいしかったでしょ。毎年お墓参りに行っているけど、昨日初めてじいちゃんかどんな人だったのか、ばあちゃんから色々聞いたよ。積任感がとても強くて曲がったことが大女兼いで、良く言えばカッコイイ男前。でも悪く言えばゆう通が利かない、難しい人だった。でもものすごく優しい人で、いつも自分の事より人の事はばかりだったって。「お母さんと一緒だ！」私はそう思ったよ。お母さんね、私が泣いて帰ってくると「勉強もスポーツも自分がこれ以上無理ってなるまで頑張らなさい。」と言って、勉強も毎日教えてくれて、マラソンも毎日つきあってくれた。でも私、すごくつかれて「もう女兼、お母さんなんて嫌いだ」と、怒ったんだ。でも段々、「一愛ちゃん、

すごいね」と、みんなが話しかけてくれるようになって友達いっはいいできたんだ。ある時お母市ちゃんから、お母さんが夜中起きてずっと勉強していた事、「もうやめねや、倒れるよ。」の言葉に、「一愛き、とくやさかったと思うから。あの子は、自分からしゃべりかけるの苦手やしね。」と、涙をいっはいいこぼした事、教えてもらったよ。それを聞いた時、なんでかなあ、すごくすごく胸がズキズキして、じゃかいもの皮をむいていたお母さんの背中にギュッとくっついたんだ。あたくて、いいにおいかしたのを覚えている。じいちゃん、私、お母さんが世界一大好きだよ。けんかもするけど、お母さんがずっと笑顔でいれるよう、次は私が元気でいくね。じいちゃん、ゆう通が利かなくて、強がりでも本当は泣き虫で、優しい優しいお母さんをうんでくれて、ありがとう。また、お墓参り行くから、待ってね。



一愛より